新　刊

□茂木　透（写真），高橋秀男ほか（監修），石井秀美ほか（解説）：**樹に咲く花　合弁花・単子葉・裸子植物**　719 pp. 2001. 山と渓谷社．¥3,600（＋税）.

離弁花1と2は，すでに本誌75巻4号と76巻2号の紹介で高く評価されている．それぞれの種類の特徴となるような細部，たとえば花の内部，芽，葉痕，葉のパタン，毛，種子，樹皮などが丹念に示され，それらを用いて科における属の見分け方，属内の種の見分け方が，一覧比較してわかるように工夫されている．とかく敬遠され勝ちなササ属についても，画像を使って同定のポイントを説明する試みがなされている．とくに種子の撮影は，被写体を準備するまでの作業が容易ではなかったことが，茂木氏のあとがきからうかがえる．本書によって，「樹に咲く花」の三分冊が揃ったことになるが，同様に「草に咲く花」という企画もほしいものだ．樹だけでも20年近くの歳月を要したのだから，草となったら世代を超えた努力が必要になるだろう．一方，これだけ豊富な映像資料を，単なる「植物図鑑」としてのみに終わらせるのはたいへんもったいない気がする．つまり，種子だけの図鑑，芽だけの図鑑，毛だけの図鑑というものができないだろうかと考えた．植物の同定という作業は，いわゆるおしば標本的なものを対象とするばかりではない．鑑識（これも identification と呼ばれる）という立場からすると，考古，古生物，捜査，材料などの分野では，一片の破片からでも原植物の見当をつける必要に迫られる．今のところ日本の植物について，そういうとき頼りにすべき図鑑はない．葉痕や冬芽については，関心が高まった時期があったが，一時のブームに終わってしまった．

監修に当たった高橋秀男氏があとがきで，「美しい写真におされて，形態の記述はアクセサリー的な存在になってしまった」と嘆息しておられるが，こういう部分図鑑を作るとなれば，解説者が存分に腕をふるう場が提供されるだろうし，それをやるためには新たな勉強が必要になるので，分類学にとっても新知識の蓄積に貢献することだろう．たとえば同じく監修の勝山輝男氏は，あとがきで検索表の問題点にふれておられる．鑑識用図鑑となれば，図の配列を含めて，検索を有効に行えるための一層の工夫が必要になるだろう．もっとも，そういう図鑑に十分な販路があるかどうかわからないが，近頃は CD などいろいろな表現媒体があるので，選択の余地があるだろう．（金井弘夫）

□福井植物研究会編：**福井県植物図鑑　V　福井のコケと地衣・［補遺］** 280 pp. 2001. 福井植物研究会発行（〒910–0006　福井市中央 2–8–27）.

福井県植物図鑑の5冊めの発行である．蘚苔類，地衣類，変形菌類，淡水藻類，補遺として，今まで載せられていなかった60種の維管束植物と，タケ類が収められている．若杉孝生が中心で，蘚類は西村直樹，苔類は古木達郎，変形菌類は萩原博光，淡水藻類は安達誘，タケ類は小林幹夫など，それぞれの分類群の専門家が中心となって執筆しているので，内容は確かである．この5巻で福井県の植物は網羅されたことになる．維管束植物1840種，シダ植物250種，蘚苔類150種，地衣類65種，藻類212種など2517種が記載されている．シダ類や維管束植物は網羅すべく努力がなされているが，淡水藻類などは一部しか収録されていないので，これで福井県の植物が総てだとは言えないが，おおよその見当はつく．永年の研究の結果がこの本に収録されたわけで，その努力に敬意を表する．写真も美しいので，見ていても楽しい本である．（山崎　敬）

□李　永魯：**韓国植物図鑑　改訂増補版** 1265 pp. 2002. Kyo-Hak Publishing Co., Ltd. 105–67, Gongdong, Mapo-gu, Seoul, Korea. 18,000 ウオン

1996年に李　永魯の韓国植物図鑑が発行されてから5年になる．今回その改定版が発行された．本の体裁は同じであるが，数種類の学名を変更し，新しく発見された十数種を加え，多数の写真を入れ替えてある．韓国の総ての植物を扱った図鑑としては，李　昌福の大韓植物図鑑（1980），李　愚喆の原色韓国